

平成28年熊本地震について

熊本県医師会

平成28年8月30日

活動状況について

4月14日(木)

- ・発災(前震) → ほぼ益城町のみ被害

4月15日(金)

- ・現地(益城町)へ視察(被災状況把握)
- ・熊本県医師会災害対策本部立ち上げ
- ・熊本JMAT出動に関するアンケート調査(JMAT登録医療機関)

4月16日(土)

- ・発災(本震)
上益城地区(益城・嘉島・御船)・阿蘇地区・宇城地区・宇土地区・菊池地区の広範囲の被害へ拡大

活動状況について

4月16日(土)

- ・益城のみに熊本JMAT派遣、地元医師会ともに避難所巡回、情報収集。DMAT・日赤医療班との連携を確認。倒壊家屋多数、ライフライン全滅、避難所多数。各種医療救護班が益城に集結していた事・土日であった事で情報全く掴めず。
- ・嘉島の避難所情報も入手し、現地視察(上益城郡副会長と情報共有)ライフラインの問題が中心だが避難所多数。まずは地元医師会で避難所巡回開始。
- ・宇城へ現地視察。(下益城郡医師会-泉会長、宇城総合病院-松田医師、下益城郡医師会-清水前会長と情報共有)避難所はあるがライフラインの問題が中心との情報、宇城総合病院DMATが中心となり地元医師会で避難所巡回開始。
- ・菊池地区は大津町の被害のみで避難所はあるがライフラインの問題が中心との情報、郡市医師会基幹病院のDMATが展開。
- ・空床情報の調査→DMATへ提供。

活動状況について

4月17日(日)

- ・再度空床情報調査(DMAT事務局と情報を共有)、空床情報提供。
JMAT出動に関するアンケート調査を実施(全会員)
- ・宇土へ現地視察。(宇土-尾崎会長、宇土-本多医師と情報共有)、避難所はあるがライフラインの問題が中心との情報、中心となる基幹病院がなく地元医師会で避難所巡回開始をお願いしたがマンパワー不足。
- ・福田会長(熊本県医)から熊本市医師会長、宇土地区医師会長、下益城郡医師会長へJMATを派遣することの連絡し、承諾を得る。
- ・坂本副会長(熊本県医)、永田先生(日医総研)より熊本市内の情報入手、避難所多数、避難民10万人⇒当県だけの対応では無理と判断し県外JMATへ派遣要請。

活動状況について

4月18日(月)

- ・JMAT派遣、空床情報の提供
- ・熊本市医師会活動開始。
- ・菊池地区は郡市医師会基幹病院のDMATが展開中。
- ・阿蘇は停電し、連絡とれず。

4月19日(火)

- ・御船地区(益城)DMAT撤収に応じ、上益城郡医師会長、兵庫県JMAチームが中心となり引き継ぎ完了。日赤、国立、その他のチームを統括し避難所巡回・医療に努める。
- ・熊本中央区福岡県JMAT3チーム、熊本北区宮崎県JMAT及び東京都・神奈川県JMATの計2チーム熊本南区沖縄県JMAT及び福岡県JMATの計2チーム、熊本市城南地区沖縄県JMATの1チーム投入し熊本市のバックアップ。

活動状況について

4月20日(水)

- ・医療救護体制のシステムチェンジ（急性期から慢性期への体制）。
- ・医療ニーズのチェック及び避難所支援に努める。
- ・知事会で菊池、阿蘇、御船、宇城に計35チームの出動通知のため現場混乱。
- ・調整本部では混乱なく概ねJMATが中心の意見で集約された。全JMAT 44チーム活動。

JMATとは

- 日本医師会災害医療チーム (Japan Medical Association Team) のことで、被災地の医療再生を支援するのを主目的とした災害医療チームである。
- 一般病院や診療所の医師を中心に構成されている。
- 救護所、避難所等における医療・健康管理。
- 被災地の病院・診療所の医療支援 (災害発生前からの医療の継続)

JMATとは

具体的には・・・

- 避難所等の公衆衛生対策、感染症対策（感染制御）、避難者の健康状態、食生活などの把握とその改善
- 在宅患者の医療、健康管理
- 派遣先地域の医療ニーズの把握と評価
- 医療支援が行き届いていない地域（医療支援空白地域）の把握、及び巡回診療等の実施

JMATとは

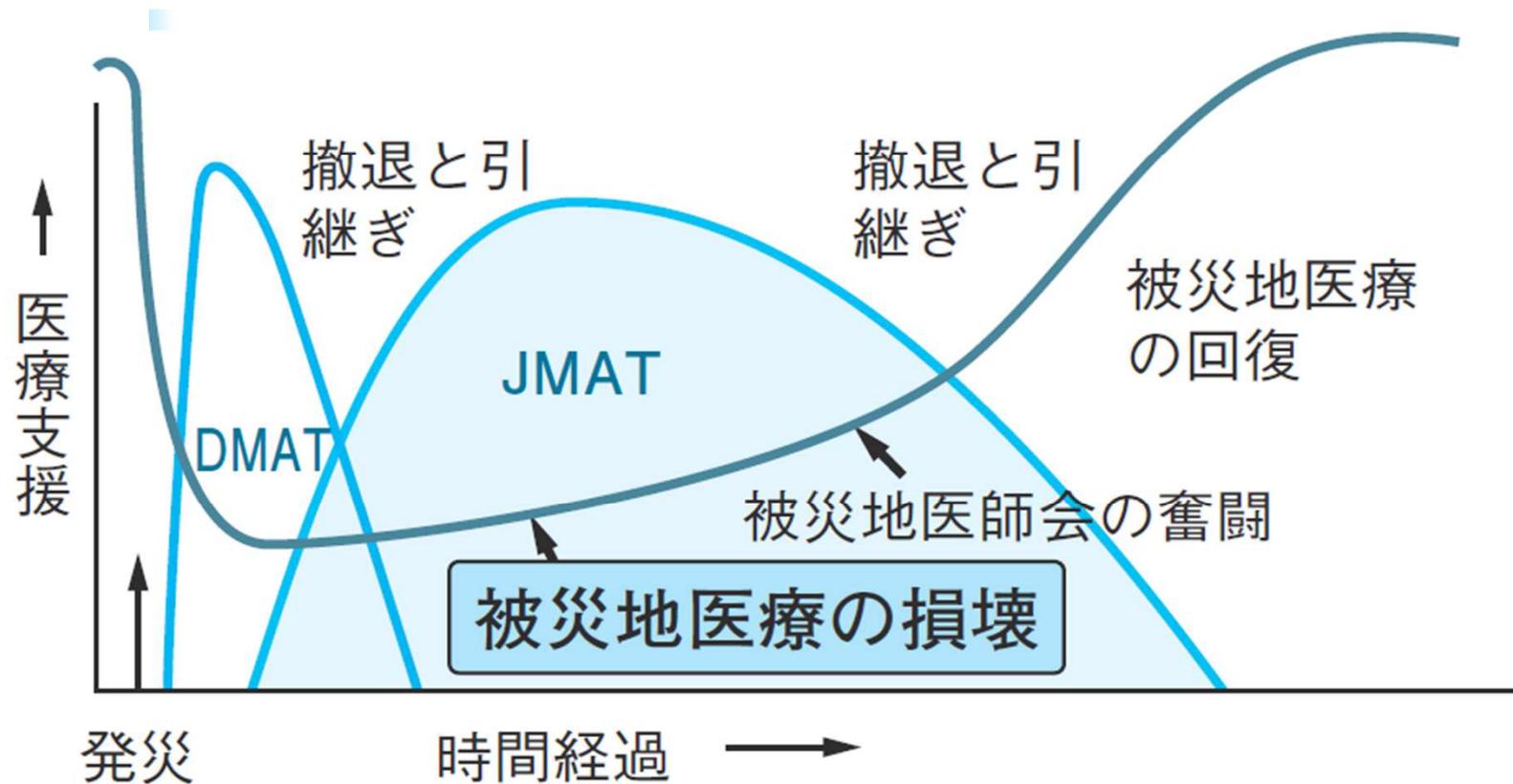
具体的には・・・

- 現地の情報の収集・把握、及び派遣元都道府県医師会等への連絡
- 被災地の医療関係者間の連絡会の設置支援
- 患者移送
- 再建された被災地の医療機関へのスムーズな引き継ぎ

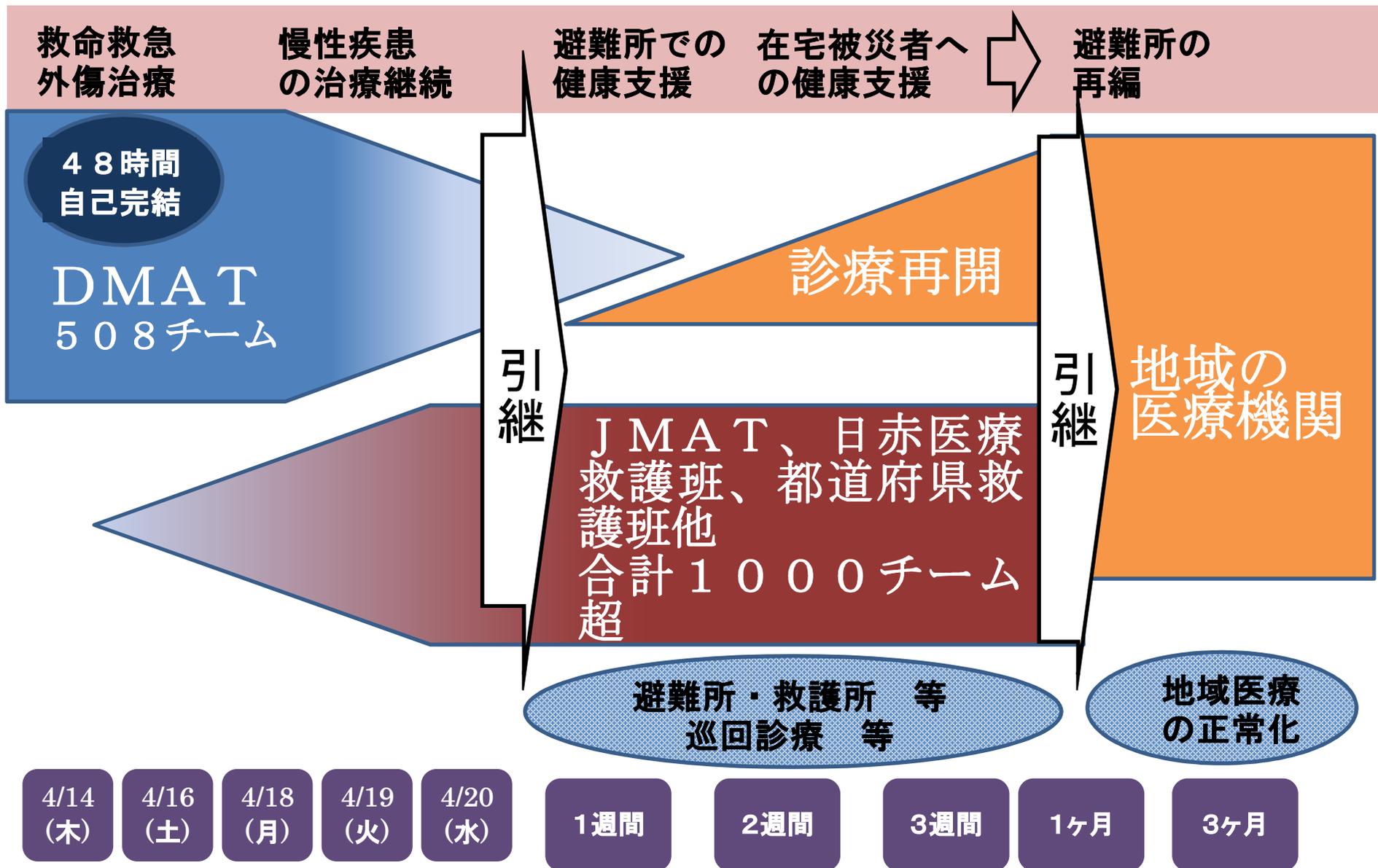
医療救護班の構成例

- 医師1名、看護職員2名、事務職員1名（事務職員の主な業務内容：運転、医療事務、活動の記録、情報収集、関係者との連絡調整、派遣元医師会等への報告等）
- 薬剤師
- 理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、救急
- 救命士、介護・福祉関係者、栄養士等

DMATとJMATの役割分担 (概念図)



災害時の地域医療提供体制の推移(イメージ)



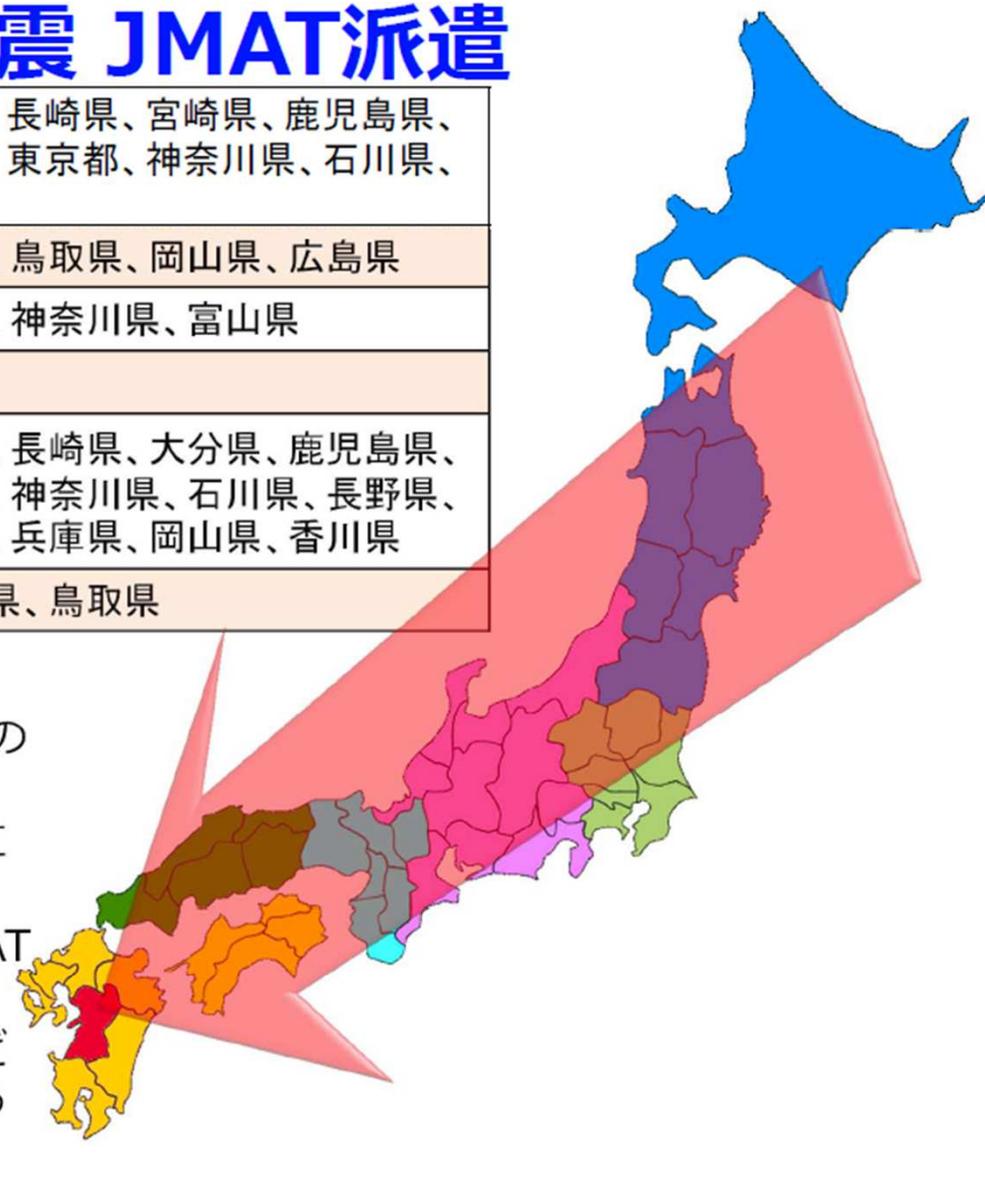
平成28年熊本地震 JMAT派遣

熊本市	熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、 沖縄県、宮城県、埼玉県、東京都、神奈川県、石川県、 愛知県
阿蘇市	熊本県、東京都、山梨県、鳥取県、岡山県、広島県
南阿蘇村	熊本県、福岡県、東京都、神奈川県、富山県
宇土市	熊本県、鹿児島県
益城町	熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、鹿児島県、 宮城県、福島県、東京都、神奈川県、石川県、長野県、 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、香川県
大津町ほか	熊本県、神奈川県、静岡県、鳥取県

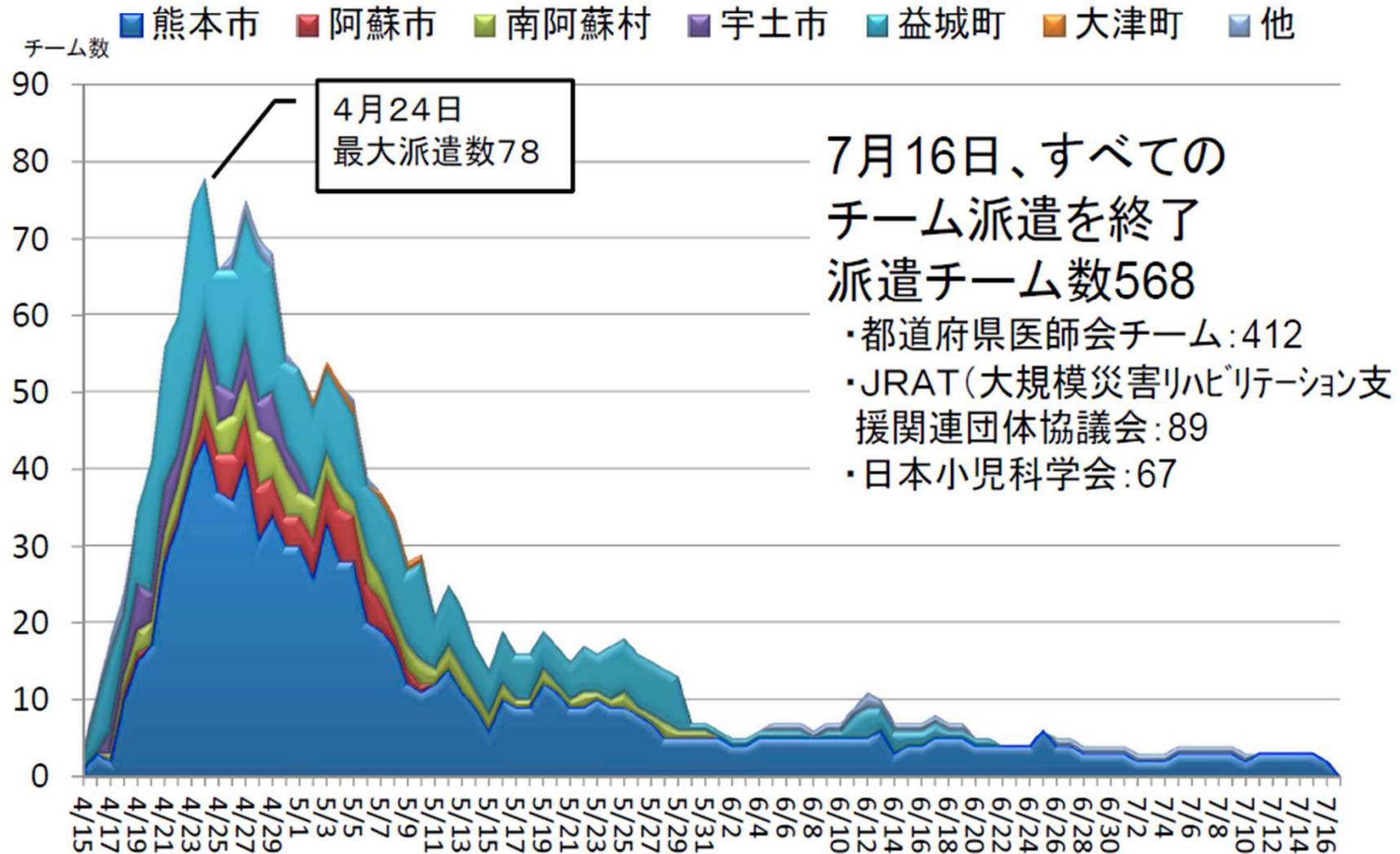
今回のJMAT活動の特徴

- 東日本大震災時に比べて“JMAT”の名前が浸透
- 災害前から、九州医師会連合会にて相互支援協定を締結
- 熊本県医師会でも災害前からJMATを編成
- 兵庫県医師会、沖縄県医師会など現地のコーディネーター役を担うケースあり

※他に、医師会が組織した知事チーム（長崎県、北海道、秋田県、茨城県、新潟県、山口県など）、
民医連、JRAT、日本小児科学会チームとしてのJMATあり

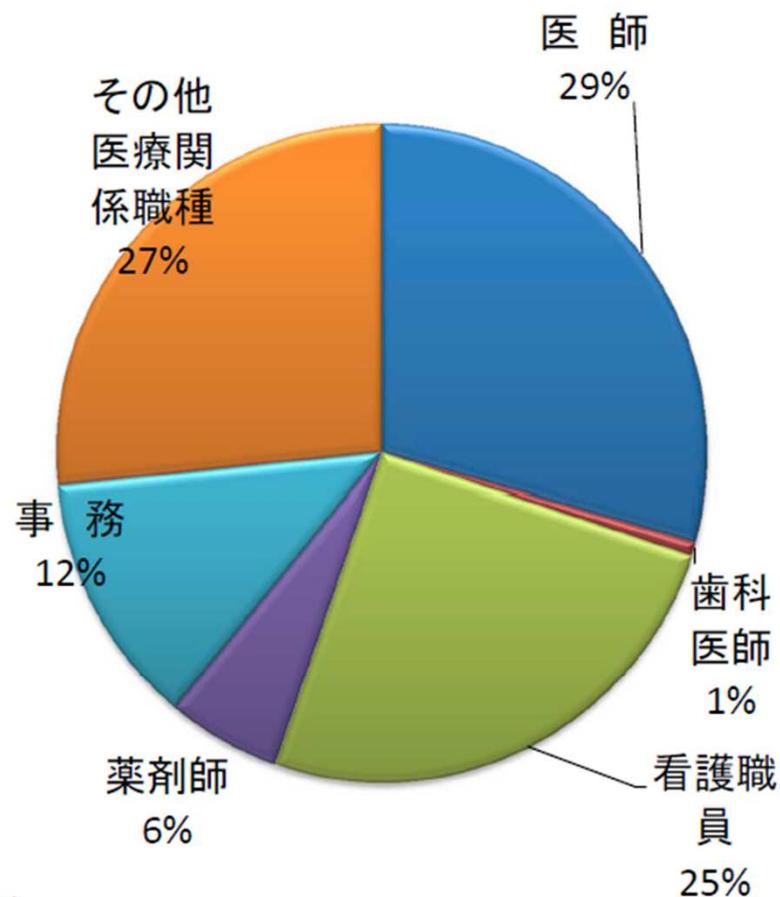


平成28年熊本地震 JMAT派遣 (7月26日現在)



平成28年熊本地震 JMAT派遣 (7月26日現在) 参加者数

職種	派遣人数
医師	750
歯科医師	17
看護職員	647
薬剤師	144
事務	318
その他 医療関係職種	680
合計	2556



※数値は延べ人数 (派:派遣中及び派遣終了、準:準備中、視察を含む)

JMAT情報共有ツール

- 熊本県医師会では、熊本県医師会とJMAT隊員、日本医師会や都道府県医師会との間で円滑に情報共有を行うべく、グループウェア(サイボウズLive)を使用しました。
- 主に使用した項目は「掲示板」と「共有フォルダー」です。
- 「掲示板」にて現地情報等を掲載し共有。
- 「共有フォルダー」にJMAT活動報告等を提出。

JMAT情報共有ツール

【ログイン直後の画面】



ログイン後、画面左上の方にある「JMAT熊本地震」(画像赤枠)をクリックすると、メインで使う画面に遷移します。

JMAT情報共有ツール

【メインで使う画面】



主に使用するの、「掲示板」「共有フォルダ」になります。

主な周知活動

「熊医会報FAXニュース」(全会員医療機関に周知)

- ・平成28年4月17日付第41号
「被災地の医療救護活動について」(県内の医療救護班募集)
- ・平成28年4月20日付第42号
「飲料水(ペットボトル)、食糧生活用品等の不足に係る対応について(お知らせ)」
- ・平成28年4月21日付第43号
「会員情報の提供について」(医療機関の被災状況調査)
- ・平成28年4月26日付第44号、4月27日付第45号
「熊本地震の伴う医療保険関係文書の発出のお知らせ」
- ・その他
(情報の詳細は本会ホームページ会員向け情報に掲載)

本スライド内容は現在検証中の為、変更する可能性がございますのでご留意ください。